

研究室訪問

let's go! CAMPUS REPORTER

キャンパスレポーターが行く!

大分雄城台高校OBで福祉健康科学部2年の梅本日奈子さんと大分雄城台高校2年生の宮成裕美子さん、高屋岬さんが、キャンパスレポーターとして研究室を訪問! 福祉健康科学部社会福祉実践コースの講師、川村岳人先生にインタビューしました。

at

大分大学 福祉健康科学部
社会福祉実践コース



訪問レポート

川村 岳人 講師

大分大学 福祉健康科学部 社会福祉実践コース

専門分野 地域福祉

最終学歴 日本福祉大学大学院社会福祉学研究科

主な研究 低所得層や福祉対象層が空間的に集中する地域における地域福祉活動の展開、社会的孤立の状態にある人々の地域生活支援



社会福祉を学ぶとは

宮成 まずは、先生の所属されている学部、コースについて教えてください。

川村 福祉健康科学部の社会福祉実践コースです。社会福祉士あるいは精神保健福祉士という国家資格の取得を目指している学生さんがほとんどです。ほかの大学に比べると、そうした資格を活かして、社会福祉のプロ、ソーシャルワーカーとして、人を支援する専門職に多くの人がいます。

宮成 具体的に、どんなことを学んだりするんですか?

川村 社会福祉の専門家になるために必要な知識や技術、価値を学びます。先生の話を学生が聞く座学のほかに、社会福祉士として相談者を面接するといったロールプレイなど学生中心で行う演習の授業も多くあります。それとは別に実習があるのも大きな特徴です。社会福祉の現場に行って社会福祉士として働いている方の下で勉強させてもらっています。梅本さんはもう実習を行ったよね。

梅本 2年生で。1年生のときにも行きました。

川村 学内だけでなく学外の現場に行って学ぶことも大きな特徴です。実習は、教員が同行しないので社会の中に放り出されるような感覚になると思います。

宮成 とても大変なイメージがあるんですけど、やはり大変ですか?

梅本 そうですね。1年の時はグループで施設を見て学ぶことが主ですが、2年では、私は児童養護施設で実際に福祉でいうところのクライエント(心理相談等の対象者)について、実践的なことをしました。

川村 例えば、児童養護施設には虐待を受けてきた子どももいます。中には、大人を簡単に信用できないのでわざと相手を怒らせるような行動をして、それでも相手が自分のことを見捨てないか試すようなことをする子がいます。知識としてはわかっていても、実際にこういう「試

し行動」を目にすると難しかったと思いますが、どうでしたか。

梅本 実際に、授業でも習っていた行動もあったので、授業で学んだことを現場で学ぶのは大事なことだと思います。

川村 現場に出て経験すると、「大学で習ったことはこういうことなのか」とか「実際にやるのはすごく難しいな」ということを体験するわけですね。

梅本 先生は現在、主にどのような研究をされていますか?

川村 僕の専攻は、地域福祉です。みんなが住みやすい地域をどううふうにつくっていくか、そこに住んでいる人たちにどのように働き掛けしていくべきのかを考えます。特に僕は、社会的に孤立している人が多い地域に着目して、どうやって地域社会の中に居場所をつくり出していくかということを研究しています。

高屋 先生が大学の福祉の先生になろうとしたきっかけは何ですか?



川村 僕は、沖縄県で公務員として働いていた6年間、この仕事は誰がやっても同じじゃないかなという感覚がすごくあったんですね。今考えれば、その仕事だって工夫次第でいくらでも自分にしかできないものにできるんですが、当時の僕はそのことに気付けなかった。自分にしかできない仕事をして何だろうと思っていたときに、「島に最期まで住み続けたい」と訴える離島の住民にどうすることもできず、こうした答えのない問題を解決する方法を自分で考えたいと思ったことが、地域福祉の研究者を目指したきっかけです。

高屋 大学で、そういうことを学んでいたとかではないんですか?

川村 僕自身は、大学では法律を学んでいて、仕事をする中で地域福祉の重要性に気づいたんですね。真っすぐ敷かれているレールの上を走ってきたというよりは、かなり遠まわりしてきたという感じです。

梅本 沖縄県で働いていたとのことですですが、沖縄県の地域福祉の難しさはありますか?

川村 銳い質問ですね。沖縄の良さは、住民同士のつながりが非常に強いことで、僕が仕事をしていた離島は特にそうでした。ただ、お互いの関係性が強いぶんその中で要求されることも多い。そこでうまく人間関係が築けなかったり、馴染めなかったりした人は、孤立したり出て行かざるを得ない。青い空と海がどこまでも広がっている穏やかなリゾート地、そういう沖縄の姿を思い浮かべる人も多いと思うけれど、実はそれだけではないんです。

これはぜひ学生さんに伝えたいことなんですが、我々が普段生活している中で見ているものはほんの一部なんですね。社会的に困難な状況や福祉的な課題を抱えている人のこと、いわゆるマイノリティの人たちのこととは見よう見まねでなかなか見えない。普通に生活していると、自分と同じような人しか周りにいなかったりします。ところが、世の中はもっと広くて、見えていないだけ、知らないだけで、実際に困っている人はたくさんいる。そういう問題を見ようとする姿勢が社会福祉では非常に大事だと思っています。

モチベーション高く 英語を勉強する方法

宮成 先生の趣味は何ですか?

川村 今一番はまっているのは英会話の勉強ですね。机に向かって勉強しているという感じではなくて、留学生と会話したり、好きなジャンルのドラマを見たりして「あ、こんな表現があるんだな」と思って学んでいます。

大学生のときに海外をひとり旅して、英語が喋れたらどこに行っても困らないのにと痛感しました。昨年3月に、大分大学の学生をスウェーデンの大学に引率してから、もっと英語が喋れるようになります。今は英語の映画やドラマを見ているときが一番リラックスできますね。

高屋 英語が苦手なんですけど、やっておいたほうがいいですよね?

川村 英語が使えたほうが自分の選択肢の幅が広がるかもしれないね。実際に自分が使う場面を想定して、こんなときに英語では何て言うのかなと考えたり、ネイティブスピーカーの人と話をして、「あ、分かった」「伝わった」と実感できると、英語に対する見方も変わってくると思います。

梅本 海外に行くことがありますか?

川村 今年はよく行きました。フィンランド、スウェーデン、オランダ、イギリス、中国…。

高屋 ヨーロッパは好き!

川村 僕もヨーロッパの街並みがすごく好きなんだけど、行くたびにもっと英語が喋れるようになります。試験のために勉強しようと思ったら、モチベーションは上がらないけど、たとえば『アナと雪の女王』を字幕なしで見られたら気持ちはよさそうじゃない(笑)?

高屋 たしかに、かっこいい!

川村 こんな話ばかりして僕はいったい何の研究者なんだという感じだけど、日本語の字幕だと文字数に限りがあるから、実際はすごく面白いことを言っているのに端折られてことが多いんだよね。だから、なるべく字幕に頼らないで英語を聞くようにしています。

川村 最初は何を話せばいいのかなと思っていたけど、みんながすごく上手に聞いてくれたので話しやすかったです。ソーシャルワークにも関係するけど、相手が喋っているときに、椅子の背にもたれかかった姿勢で聞かれたら、誰だって話す気持ちがなくなってしまうでしょう。でも、前のめりで「うん、うん」と言うだけで励まされて喋りやすくなるよね。そういうふうにしたら相手が喋りやすくなるかなということも演習の授業です。

取材を終えて



梅本 /

先生とは授業で結構会っているけど、授業では聞けない話をいっぱい聞かせていただいて、いい勉強になりました。

高屋 /

周りの人から聞けないような貴重な話をたくさん聞けて、いい経験になりました。

宮成 /

もうちょっと質問できたら良かったな。学校じゃ学べないことについて、直接話を聞くことができたので、すごく良かったなと思います。